

## 第三セクターの決算状況及び経営評価の概要について（平成16年度決算）

平成17年9月

総務課

### 1 県出資法人数（25%以上）

経営評価の対象となる県の出資等比率25%以上の法人は、株式会社16、公益法人等31、合計47法人となっている。

	株式 会社	公益法人等				合計
		財団法人	社団法人	その他	小計	
50%以上	5	12	2	5	19	24
25%以上50%未満	11	8	2	2	12	23
<b>計</b>	<b>16</b>	<b>20</b>	<b>4</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>47</b>
（15年度対象法人数）	16	22	4	8	34	50
（増減）	0	2	0	1	3	3

（注）「その他」法人：土地開発公社、信用保証協会、社会福祉法人など民法、商法以外の法律に基づき設立された法人

### 【参考】法人数の異動

#### （1）解散した法人 2法人

（財）秋田県アイバンク（県出資率100%）：平成17年3月解散

（財）秋田県勤労者福祉事業団（県出資率76.5%）：平成16年7月解散

#### （2）県関与がなくなった法人 1法人

鹿角市土地開発公社（H16年度は県出資率50.0%）：

平成17年3月に県出資金を全額（10,000千円）返還

## 2 決算の概要（県の出資比率25%以上の47法人）

	株式会社			公益法人等			合計		
	15年度 決算	16年度 決算	増減	15年度 決算	16年度 決算	増減	15年度 決算	16年度 決算	増減
黒字法人	14	12	2	16	16	0	30	28	2
赤字法人	2	4	2	18	15	3	20	19	1
合計	16	16	0	34	31	3	50	47	3

株式会社については、（株）秋田県分析化学センター等3社が赤字転換となった。

公益法人等については、低金利による資金運用収入の減少及び景気低迷による売上の減少等により、依然厳しい経営状況が続いている。

秋田内陸縦貫鉄道（株）と由利高原鉄道（株）については、経常利益は赤字であるが、前年度経常赤字分を基金の運用益や県・沿線市町村の補助金で補てんするため当期利益は黒字である。

### （1）黒字転換となった法人 6法人

株式会社 1法人

（株）男鹿水族館

公益法人等 5法人

（財）秋田県総合公社、（社）秋田県青果物価格安定基金協会、（財）秋田県栽培漁業協会、（財）あきた企業活性化センター、（財）暴力団壊滅秋田県民会議

### （2）赤字転換となった法人 8法人

株式会社 3法人

（株）秋田県分析化学センター、田沢湖高原リフト（株）、十和田ホテル（株）

公益法人等 5法人

（財）秋田県国際交流協会、（財）秋田県長寿社会振興財団、（財）秋田県災害遺児愛護会、（財）秋田県生活衛生営業指導センター、秋田県漁業信用基金協会

### (3) 累積赤字が存在する法人 9法人

累積赤字法人	株式会社			公益法人等			合計		
	15年度決算	16年度決算	増減	15年度決算	16年度決算	増減	15年度決算	16年度決算	増減
	8	7	1	4	2	2	12	9	3

#### 株式会社 7法人

(株)秋田県食肉流通公社、田沢湖高原リフト(株)、(株)秋田ふるさと村、十和田ホテル(株)、秋田内陸縦貫鉄道(株)、由利高原鉄道(株)、秋田新幹線車両保有(株)

#### 公益法人等 2法人

(社)秋田県農業公社、(財)秋田県物産振興会

### (4) 累積赤字が解消した法人 2法人

(株)男鹿水族館、秋田県住宅供給公社

## 3 経営評価の概要(県の出資比率25%以上の47法人)

県出資比率25%以上の法人について、法人運営を健全性・収益性・発展性・効率性から主要な10の経営指標に基づき分析するとともに、経営目標の達成状況を加味し、次の視点も考慮して「概ね安定した経営内容」、「一層の努力を要する経営内容」の2段階の評価を実施している。

連続赤字になっていないか。

累積損失はないか。

巨額の借入金等により将来の経営に支障をきたす要因がないか。

	株式会社			公益法人等			合計		
	16年度評価	17年度評価	増減	16年度評価	17年度評価	増減	16年度評価	17年度評価	増減
概ね安定した経営内容	7	6	1	19	14	5	26	20	6
一層の努力を要する経営内容	7	9	2	12	14	2	19	23	4
評価なし(開業・統合早々、解散方針決定等)	2	1	1	3	3	0	5	4	1
合計	16	16	0	34	31	3	50	47	3

平成17年度評価(対象:平成16年度決算)では、「概ね安定した経営内容」の法人は20法人、「一層の努力を要する経営内容」の法人は23法人となっている。

**(1) 評価に変更があった法人 5法人**

- 「概ね安定した経営内容」 「一層の努力を要する経営内容」 5法人
- ・秋田臨海鉄道(株)(2期連続赤字であり、収入確保対策が必要な法人)
  - ・(財)秋田県国際交流協会(3期連続基金を取り崩しており、一層の効率的な事業の実施が必要)
  - ・(社福)秋田県社会福祉事業団(3期連続赤字であり、一層の効率的な運営が必要な法人)
  - ・(社福)秋田県小児療育事業団(2期連続赤字であり、一層の効率的な運営が必要な法人)
  - ・秋田県土地開発公社(2期連続赤字であり、一層の効率的な運営が必要な法人)

「一層の努力を要する経営内容」 「概ね安定した経営内容」 なし

**(2) 開業または統合後3年経過により、今年度から評価を行った法人 1法人**

- ・(株)秋田県分析化学センター(経営体質の強化が必要)

**(参考) 評価を行わなかった法人 4法人**

- ・(株)男鹿水族館 (開業後3年未満)
- ・(財)秋田県傷痍軍人会 (解散の方針が決定)
- ・(財)あきた移植医療協会 (平成17年度統合)
- ・(財)大館市勤労者福祉事業団 (県関与廃止予定)